



## 2023年10月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2023年6月13日

上場会社名 株式会社CINC 上場取引所 東  
 コード番号 4378 URL <https://www.cinc-j.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石松 友典  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 雨越 仁 (TEL) 03-6822-3601  
 (代表)  
 四半期報告書提出予定日 2023年6月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)  
 (百万円未満切捨て)

## 1. 2023年10月期第2四半期の業績(2022年11月1日~2023年4月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年10月期第2四半期	1,012	18.8	85	△37.0	85	△36.9	8	△90.7
2022年10月期第2四半期	852	—	135	—	134	—	86	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2023年10月期第2四半期	2.39		2.24					
2022年10月期第2四半期	25.96		24.02					

(注) 2021年10月期第2四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、  
 2022年10月期第2四半期の前年同四半期増減率を記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年10月期第2四半期	1,974	1,506	76.3
2022年10月期	2,025	1,497	73.9

(参考) 自己資本 2023年10月期第2四半期 1,505百万円 2022年10月期 1,497百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年10月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年10月期	—	0.00	—	—	—
2023年10月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年10月期の業績予想(2022年11月1日~2023年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,897	5.1	△29	—	△30	—	△67	—	△20.09

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

2. 業績予想の修正については、本日発表の「業績予想の下方修正に関するお知らせ」をご参照願います。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

会計方針の変更に関する注記

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2023年10月期2Q	3,366,010株	2022年10月期	3,361,810株
-------------	------------	-----------	------------

② 期末自己株式数

2023年10月期2Q	39株	2022年10月期	-株
-------------	-----	-----------	----

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2023年10月期2Q	3,365,304株	2022年10月期2Q	3,328,000株
-------------	------------	-------------	------------

発行済株式数に関する注記

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に対する制限の緩和とそれに伴う経済活動の正常化が進む一方で、ウクライナ情勢の長期化による国際情勢不安を背景に、エネルギー価格や原材料価格の高騰、各国における金融政策の引き締めなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

一方で、当社が展開するサービスを取り巻く環境は、インターネット、スマートフォン、SNSの普及によりデジタルチャネルでの購買が一般化してきたことにより、企業のマーケティング活動のデジタルシフトが続いており、当社が事業を展開するDXコンサルティングや「Keywordmap」シリーズ等のデジタルマーケティングを支援するサービスへの需要は引続き拡大傾向に有り、堅調な成長を続けております。

このような経営環境のもと、当第2四半期累計期間の売上高は1,012,756千円（前年同四半期比18.8%増）、売上総利益は706,435千円（前年同四半期比14.3%増）となりました。一方、前期に積極的に人材投資を行ったため人件費が増加したこと、新オフィス移転により一過性の費用が発生したことなどにより、営業利益は85,508千円（前年同四半期比37.0%減）、経常利益は85,021千円（前年同四半期比36.9%減）となりました。また、「Keywordmap for SNS」のサービス縮小の決定に伴い減損損失を計上したため、税引前四半期純利益は28,126千円（前年同四半期比79.1%減）、四半期純利益は8,050千円（前年同四半期比90.7%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は以下のとおりになります。

#### (ソリューション事業)

ソリューション事業は、「Keywordmap」については、営業部員の人材育成が計画通りに進捗しなかったこと、新規の顧客層がハイリテラシー層からライトユーザー層に拡張したことで顧客のニーズが分析の精度から使いやすさ・わかりやすさに変化したことにより当社の競争優位性が低下したため、新規案件の獲得が鈍化しました。また、カスタマーサクセスチームに関しても人材育成が計画通りに進捗しておらず、十分なサポート・サクセス支援品質を提供できなかったことにより、解約率が上昇しました。

「Keywordmap for SNS」についても、営業部員の人材育成が計画通りに進捗しなかったこと、Twitter社から提供されるAPIの仕様変更の発表によりサービス提供が不安定な状況となったことにより、新規案件の獲得が鈍化しました。また、カスタマーサクセスチームに関しても人材育成が計画通りに進捗しておらず、十分なサポート・サクセス支援品質を提供できなかったこと、「Keywordmap for SNS」を活用したSNSマーケティングは成果創出まで時間がかかるため、短期的な成果を求めるクライアントのニーズと一致しなかったことによる解約が発生したことにより、解約率が上昇しました。そのため、現状のサービス提供を維持した状態では、今後にわたって安定的に収益を確保することは困難と判断し、2023年5月19日開催の取締役会にて、「Keywordmap for SNS」のサービス縮小を決定いたしました。

その結果、当セグメントの売上高は476,064千円（前年同四半期比14.1%増）、セグメント利益は47,546千円（前年同四半期比50.8%減）となりました。

#### (アナリティクス事業)

アナリティクス事業は、既存のDXコンサルティングサービスにおいては、ウェビナーやSNSを活用したマーケティング施策が順調に推移したものの、営業人員の人材育成が計画通りに進捗しなかったことで受注率が鈍化し、新規獲得案件が減少しました。一方、新規サービスであるSNSマーケティングコンサルサービスやエキスパートソーシングサービスにおいては、人員採用が遅延したものの、案件獲得が堅調に進捗しました。

その結果、当セグメントの売上高は547,732千円（前年同四半期比23.8%増）、セグメント利益は37,961千円（前年同四半期比2.8%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

当第2四半期会計期間末の資産につきましては、前事業年度末に比べて51,379千円減少し、1,974,210千円となりました。これは主に、新オフィス移転の支払いによる現金及び預金の減少（前事業年度末比65,924千円の減少）、旧オフィスの敷金返戻による敷金の減少（前事業年度末比24,361千円の減少）、「Keywordmap for SNS」の減損損失による無形固定資産に含まれるソフトウェアの減少（前事業年度末比24,280千円の減少）、新オフィスへの移転に伴う有形固定資産に含まれる建物及び建物付属設備の増加（前事業年度末比59,917千円の増加）、工具、器具及び備品の増加（前事業年度末比15,505千円の増加）によるものであります。

### (負債)

当第2四半期会計期間末の負債につきましては、前事業年度末に比べて59,592千円減少し、468,049千円となりました。これは主に、借入金の減少（前事業年度末比38,340千円の減少）、未払法人税等の減少（前事業年度末比31,405千円の減少）、未払消費税等の減少（前事業年度末比28,999千円の減少）、資産除去債務の増加（前事業年度末比22,139千円の増加）によるものであります。

### (純資産)

当第2四半期会計期間末の純資産につきましては、前事業年度末に比べて8,213千円増加し、1,506,161千円となりました。これは主に、利益剰余金の増加（前事業年度末比8,050千円の増加）によるものであります。

### (キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、1,457,585千円となり、前事業年度末残高に比べ65,924千円減少いたしました。なお、当第2四半期累計期間におけるキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、59,338千円（前年同四半期52,759千円の収入）となりました。

これは主に、法人税等の支払により60,633千円の減少、未払消費税等の支払により28,999千円の減少となった一方で、減損損失56,821千円、減価償却費27,724千円、税引前四半期純利益28,126千円を計上したことによるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、87,085千円（前年同四半期126,249千円の支出）となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出57,919千円、無形固定資産の取得による支出53,527千円を計上、旧オフィス敷金の返還24,361千円を計上したことによるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は38,177千円（前年同四半期51,142千円の支出）となりました。

これは主に、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金含む）38,340千円を返済したことによるものであります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年10月期の業績予想につきまして、売上面、利益面とも下方修正いたしました。詳細は本日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照願います。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年10月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,523,509	1,457,585
受取手形及び売掛金	187,967	190,123
その他	62,844	40,312
貸倒引当金	△481	△490
流動資産合計	1,773,839	1,687,530
固定資産		
有形固定資産	5,260	80,683
無形固定資産	85,085	58,564
投資その他の資産		
その他	162,089	148,597
貸倒引当金	△685	△1,164
投資その他の資産合計	161,403	147,432
固定資産合計	251,750	286,680
資産合計	2,025,589	1,974,210

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年10月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年4月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	53,422	47,384
1年内返済予定の長期借入金	80,012	76,598
未払法人税等	70,086	38,681
賞与引当金	42,314	42,788
その他	210,197	203,773
流動負債合計	456,032	409,226
固定負債		
長期借入金	71,609	36,683
資産除去債務	—	22,139
固定負債合計	71,609	58,822
負債合計	527,641	468,049
純資産の部		
株主資本		
資本金	475,601	475,711
資本剰余金	465,601	465,711
利益剰余金	556,510	564,560
自己株式	—	△55
株主資本合計	1,497,713	1,505,927
新株予約権	234	233
純資産合計	1,497,948	1,506,161
負債純資産合計	2,025,589	1,974,210

## (2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2021年11月1日 至2022年4月30日)	当第2四半期累計期間 (自2022年11月1日 至2023年4月30日)
売上高	852,324	1,012,756
売上原価	234,010	306,321
売上総利益	618,313	706,435
販売費及び一般管理費	482,602	620,926
営業利益	135,710	85,508
営業外収益		
受取利息	6	7
その他	7	66
営業外収益合計	13	73
営業外費用		
支払利息	915	561
その他	5	—
営業外費用合計	920	561
経常利益	134,804	85,021
特別利益		
新株予約権戻入益	—	0
特別利益合計	—	0
特別損失		
固定資産除売却損	73	73
減損損失	—	56,821
特別損失合計	73	56,894
税引前四半期純利益	134,731	28,126
法人税、住民税及び事業税	47,073	30,393
法人税等調整額	1,269	△10,317
法人税等合計	48,343	20,076
四半期純利益	86,388	8,050



## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年4月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年11月1日 至 2023年4月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	134,731	28,126
減価償却費	18,367	27,724
減損損失	—	56,821
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	385	488
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△2,418	△312
受取利息及び受取配当金	△6	△7
支払利息	915	561
売上債権の増減額 (△は増加)	△26,275	△4,889
仕入債務の増減額 (△は減少)	5,501	△6,037
未払金の増減額 (△は減少)	10,336	10,171
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△22,396	△28,999
未払法人税等 (外形標準課税) の増減額 (△は減少)	△4,896	△1,164
その他	12,778	38,043
小計	127,022	120,525
利息及び配当金の受取額	6	7
利息の支払額	△908	△560
法人税等の支払額	△73,359	△60,633
営業活動によるキャッシュ・フロー	52,759	59,338
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△258	△57,919
有形固定資産の売却による収入	52	—
無形固定資産の取得による支出	△35,545	△53,527
敷金及び保証金の差入による支出	△90,498	—
敷金及び保証金の回収による収入	—	24,361
投資活動によるキャッシュ・フロー	△126,249	△87,085
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△51,142	△38,340
新株予約権の行使による株式の発行による収入	—	218
自己株式の取得による支出	—	△55
財務活動によるキャッシュ・フロー	△51,142	△38,177
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△124,631	△65,924
現金及び現金同等物の期首残高	1,603,870	1,523,509
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,479,238	1,457,585

## (4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 2021年11月1日 至 2022年4月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上額 (注) 2
	ソリューション 事業	アナリティクス 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	409,916	442,408	852,324	—	852,324
セグメント間の内部売上高 又は振替高	7,467	—	7,467	△7,467	—
計	417,384	442,408	859,792	△7,467	852,324
セグメント利益	96,664	39,046	135,710	—	135,710

- (注) 1. 「調整額」の区分は、セグメント間取引消去7,467千円を含んでおります。  
2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 2022年11月1日 至 2023年4月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上額 (注) 2
	ソリューション 事業	アナリティクス 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	465,999	546,757	1,012,756	—	1,012,756
セグメント間の内部売上高 又は振替高	10,065	975	11,040	△11,040	—
計	476,064	547,732	1,023,797	△11,040	1,012,756
セグメント利益	47,546	37,961	85,508	—	85,508

- (注) 1. 「調整額」の区分は、セグメント間取引消去11,040千円を含んでおります。  
2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「ソリューション事業」において、「Keywordmap for SNS」の一部サービスの縮小を決定したことにより、ソフトウェアについて減損処理を行い、減損損失56,821千円を計上しました。